

株主メモ

事業年度 2月1日から翌年1月31日まで

定時株主総会 毎年4月

期末配当金受領株主
確定日 1月31日

中間配当金受領株主
確定日 7月31日

公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL <https://www.imura.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故、
その他のやむを得ない事由が生じたときは、
日本経済新聞に公告いたします。)

上場証券取引所 東京証券取引所 スタンダード市場

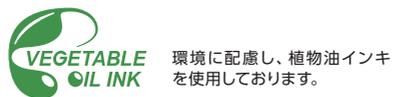
1単元の株式数 100株

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777 (通話料無料)

株式に関する諸手続についてのご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。



UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しております。

 IMURA ENVELOPE CO., INC.



第73期 中間報告書

2022年2月1日

2022年7月31日

73 Imura Report

INDEX	
株主の皆様へ	1
連結財務諸表	3
トピック	5
IMURA コラム	6
メモルダールお届けのご案内	7
株式の状況・所有者別状況	9
会社の概要・役員・事業所	10

株主の皆様へ



代表取締役社長 井村 優

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第73期中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶を兼ね、事業の概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策と経済活動の両立が進むなど、持ち直しの兆しが見られるものの、ウクライナ情勢を受けたエネルギー価格や原材料価格の上昇もあり、依然として厳しい状況で推移いたしました。

当社グループの事業領域に影響を及ぼす郵便及びメール便の取扱数量は前年同期比微減で推移しており、需要回復の兆しは確認されておりません。ダイレクトメール市場においては、「折込・DM郵便料(経済産業省公表)」が僅かながら増加するものの、郵便通数を増加させるまでには至っておらず、当社グループを取り巻く環境は先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢のもと、当社グループは、「Give & Give & Give(全ての人に最高の付加価値を届け続ける)」を経営理念の基本精神に掲げ、「変革とイノベーション(革新)により新たな成長軌道を実現し、企業価値の更なる向上を図ることにより全てのステークホルダーに最高の付加価値を提供する。」を基本方針とする3か年の中期経営計画「IMURA VISION 2030 Stage I」を2021年度よりスタートさせ、新生イムラの基盤づくりを、全社を挙げて進めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、コロナ禍による需要回復の遅れはあるものの、ワクチン接種券やマイナンバーカード発送に関連した官需もあり、112億59百万円(前年同期比5.1%増)となりました。損益面につきましては、株式会社ハシモトコーポレーションの子会社化によるのれん償却費等を計上するものの、増収効果や付加価値の高い製品・サービスの提案等、収益性を重視した各種販売施策の実施により、営業利益は9億97百万円(前年同期比6.2%増)、経常利益は10億72百万円(前年同期比4.9%増)となり、また、社宅跡地の売却による特別利益の計上等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は7億59百万円(前年同期比5.3%増)となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等の適用により、当第2四半期連結累計期間の売上高及び売上原価は、それぞれ32百万円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

株主の皆様におかれましては、何卒、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2022年10月

セグメントの概況

パッケージソリューション事業

コロナ禍による経済活動後退による需要の落ち込みはあったものの、官需によるスポット案件もあり、売上高は82億11百万円(前年同期比3.1%増)となりました。損益面では、前述ののれん償却費等の計上による販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は6億21百万円(前年同期比9.7%減)となりました。

メーリングサービス事業

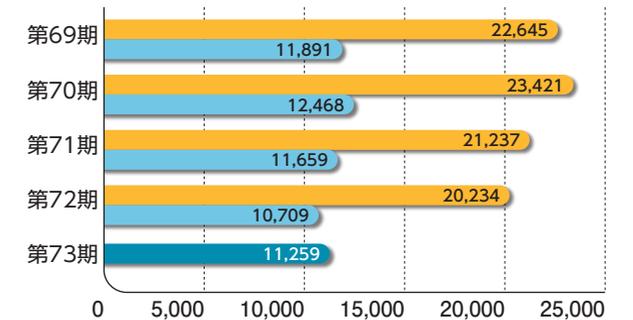
コロナ禍における企画見直し等により、既存案件の売上は減少するものの、新たに発生した官需の取込みもあり、売上高は21億63百万円(前年同期比6.4%増)となりました。損益面では、増収効果に加え、売上総利益率の上昇もあり、営業利益は3億63百万円(前年同期比62.2%増)となりました。

その他

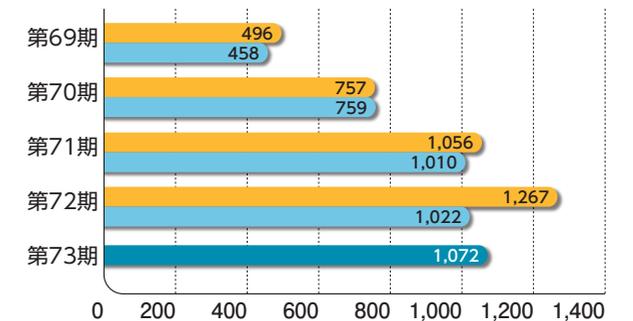
封入機の製造販売を手掛ける子会社の業績が回復したことから、売上高は8億84百万円(前年同期比23.9%増)と増収となるものの、医療機関向け印刷物を手がける子会社において、生産機能の移管等、グループ内での構造改革を進めた結果、一時的な移設費用等が発生したことにより、営業利益は8百万円(前年同期比77.5%減)となりました。

財務ハイライト(連結) ● 通期 ● 第2四半期 ● 当第2四半期

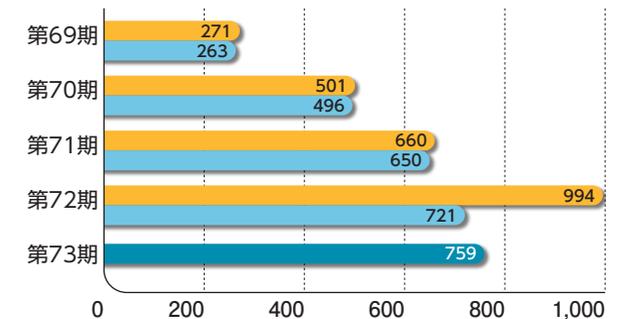
売上高(単位:百万円)



経常利益(単位:百万円)



親会社株主に帰属する純利益(単位:百万円)



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期末 (2022年1月31日現在)	当第2四半期末 (2022年7月31日現在)
資産の部		
流動資産	9,334	9,752
現金及び預金	3,981	2,926
受取手形及び売掛金	3,270	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	4,089
電子記録債権	852	1,077
棚卸資産	1,144	1,454
その他	85	204
固定資産	10,011	10,319
有形固定資産	7,327	7,615
建物及び構築物	1,292	1,419
機械装置及び運搬具	1,812	1,822
土地	3,648	3,909
その他	573	464
無形固定資産	222	240
投資その他の資産	2,462	2,463
投資有価証券	1,034	1,037
その他	1,428	1,426
資産合計	19,346	20,072

資産の部

「現金及び預金」等が減少した一方で、「受取手形、売掛金及び契約資産」、「棚卸資産」、「土地」等が増加したことにより、資産合計は前期末に比べ7億2,500万円増加し、200億7,200万円となりました。

(単位:百万円)

科目	前期末 (2022年1月31日現在)	当第2四半期末 (2022年7月31日現在)
負債の部		
流動負債	4,079	4,378
支払手形及び買掛金	975	1,097
電子記録債務	1,106	1,268
その他	1,998	2,012
固定負債	466	519
負債合計	4,546	4,898
純資産の部		
株主資本	13,742	14,184
資本金	1,197	1,197
資本剰余金	1,377	1,383
利益剰余金	11,593	12,052
自己株式	△ 426	△ 450
その他の包括利益累計額	1,006	937
その他有価証券評価差額金	288	290
退職給付に係る調整累計額	718	647
新株予約権	37	37
非支配株主持分	13	14
純資産合計	14,800	15,173
負債純資産合計	19,346	20,072

負債の部

「電子記録債務」、「支払手形及び買掛金」等が増加したことにより、負債合計は前期末に比べ3億5,200万円増加し、48億9,800万円となりました。

純資産の部

「利益剰余金」等の増加などにより、前期末に比べ3億7,300万円増加し、151億7,300万円となりました。
なお、自己資本比率は前期末に比べ0.9ポイント低下し、75.3%となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (2021年2月1日から 2021年7月31日まで)	当第2四半期 (2022年2月1日から 2022年7月31日まで)
売上高	10,709	11,259
売上原価	7,814	8,100
売上総利益	2,894	3,158
販売費及び一般管理費	1,955	2,161
営業利益	938	① 997
営業外収益	90	83
営業外費用	7	8
経常利益	1,022	1,072
特別利益	11	64
特別損失	2	11
税金等調整前四半期純利益	1,030	1,124
法人税、住民税及び事業税	257	325
法人税等調整額	51	39
四半期純利益	721	759
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	721	759

① 営業利益

増収効果や付加価値の高い製品・サービスの提案等、収益性を重視した各種販売施策の実施により、営業利益は前年同期比58百万円の増益となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (2021年2月1日から 2021年7月31日まで)	当第2四半期 (2022年2月1日から 2022年7月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	564	△156
投資活動によるキャッシュ・フロー	△96	△215
財務活動によるキャッシュ・フロー	△318	△686
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額	148	△1,058
現金及び現金同等物の期首残高	2,817	3,861
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,966	2,802

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の支出は1億5,600万円(前年同期5億6,400万円の収入)となりました。これは主に、資金の増加要因として税金等調整前四半期純利益11億2,400万円、資金の減少要因として大口案件の受注による売上債権の増加額9億4,900万円、原材料の値上げに備えた在庫積み増しに起因した棚卸資産の増加額2億9,500万円によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金の支出は2億1,500万円(前年同期9,600万円の支出)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2億9,000万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の支出は6億8,600万円(前年同期3億1,800万円の支出)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出3億4,900万円、配当金の支払額3億円によるものです。

■ 配当金について

当期の中間配当につきましては、当初の予定通り見送らせていただくこととなりました。

——— 新社名・新ロゴマークについて ———

2023年2月1日、当社は社名とロゴマークを変更します。
新社名は「株式会社イムラ」です。



新シンボルマークは「人と人の和を起点とし、支えあい一丸となり挑戦することで「幸せの循環」(潤創)を生み出す様子」を表しています。

そしてその潤いが社会に満ち溢れていくような、当社がそのような未来をつくっていく企業であるということを形や色に込めています。

色はコーポレートカラーである「ブルー」を基調にしました。

右側の新ロゴタイプ(文字)は、今後、イムラブランドが国内に留まらず、グローバルに展開していくことを視野に、ローマ字表記にしました。

当社は荷札の製造販売から始まり、常に独創的な発想で社会にインパクトを与え続けてきました。

現在では封筒のトップメーカーとして、時代とともに変化するお客様のニーズに合わせ、様々な製品、サービスをお届けしています。

2018年に創業100周年を迎え、今一度創業精神に立ち返し、

封筒だけに限らず社会やお客様が求める価値を創造するソリューション企業、

クリエイティブな企業を目指し、社員一丸となって次の100年を創造していきます。

幸せが潤環する、
明日を創造する。

ニッポン 「近代郵便」始め

郵政博物館の收藏品から

第7回

「声」を届ける郵便。

1952年から1953年にかけて、録音した声を届ける「声の郵便」がありました。祝辞や宣伝などに利用されたほか、異国にいる家族などへの声の手紙としても活用され喜ばれたようです。



「声の郵便」に使われた録音盤は、ダンボール紙にアセートを塗装したもの(写真左)とビニール製(写真右)、ベニヤ板製の3種類があった。

「あなたの声を手紙のかわりにレコードに吹き込んで相手に送り、相手方はこれを蓄音器等にかけて聞く新しい通信方法です」と、当時の郵便局のチラシで宣伝された「声の郵便」。

発案者は大の郵便好きで、郵政審議会専門委員も務めたという林正治氏です。この「声の郵便」の他に、お年玉くじ



▲「声の郵便」のスタートを紹介する「東京中野ニュース」(1952年10月1日)

付き年賀ハガキや小包ハガキも考案しています。

声を吹き込むための録音室は、郵政本省や地方郵政局のほか、全国58の郵便局に備えられました。宣伝のためか、サービス開始日からしばらく無料で録音するサービスも行われていたようです。

「声の郵便」の料金は、6インチ(15cm)盤のレコードと録音代で80円、郵便料金は8円でした(ちなみに当時の普通郵便料金は封書で10円)。6インチ盤の両面で約3分の録音ができたとか。他に8インチ盤や10インチ盤もあったようです。

宣伝用チラシには「祝詞や弔辞、商家の宣伝、学生の学習用、卒業時の寄せ書き代わりに」と「声の郵便」ならではの用途をアピールしていますが、当時話題になったのは、異国で暮らしたり、オリンピック選手として渡航していたりする人たちへ、日本の家族や友人たちから送られた「声の郵便」で、非常に感激されたとあります。

資料提供・監修

郵政博物館

東京都墨田区押上1-1-2 東京スカイツリータウン・ソラマチ9F
TEL:03-6240-4311 <https://www.postalmuseum.jp/>

メモルダ-お届けのご案内

お申込みはがきを
ご返送いただいた株主の皆様へ

2023年版 メモルダ-を お届けいたします

株主様の日頃のご支援に感謝し、今年も当社オリジナル商品のポケット付きカレンダー「メモルダ-」をお届けいたします。お好きなメモルダ-をお届けいたしますので、同封のお申込みはがきにてご希望の商品番号をお知らせください。「メモルダ-」のお届けは、7月31日現在の株主名簿に記載または記録された**1単元(100株)以上**ご所有、かつお申込みはがきをご返送いただいた株主様に限らせていただきます。何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

お申込み方法

1単元(100株)以上ご所有の株主様には、お申込みはがきを同封しておりますので「お名前」「電話番号」「株主番号」「メールアドレス(任意)」「ご希望の商品番号(1~5の中から1点)」をご記入のうえ、ご返送ください。

■お申込み受付期限
2022年10月末日(当社到着分)

■お届け
2022年12月上旬の予定

はがきのご返送がない場合はお送りいたしませんので、何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。なお、お申込み時に特にご指定のない場合は[1.実用メモルダ-]をお届けいたします。

商品番号

1



実用メモルダ-

人気のスタンダードタイプ

カラーユニバーサル 六曜旧暦 二十四節気

見開きサイズ : 245×443mm

ポケット数 : 12枚

カラーユニバーサルデザイン認定製品^{※1}

※1.色覚の多様性に配慮し、平日と休日の区別がしやすいよう、色づかいを工夫しています。

商品番号

2



クラフトメモルダ-

クラフト調の壁かけタイプ



見開きサイズ : 245×443mm

ポケット数 : 12枚

商品番号

3



花メモルダ-

季節感のある壁かけタイプ

見開きサイズ : 270×522mm

ポケット数 : 12枚

商品番号

4



卓上メモルダ-

実用性が高い卓上タイプ



サイズ : 185×138mm

ポケット数 : 13枚(有効数12枚)

カラーユニバーサルデザイン認定製品^{※1}

商品番号

5



ナチュラル卓上カレンダー

環境配慮の卓上タイプ



サイズ : 185×138mm

ポケット数 : 13枚(有効数12枚)

株式の状況・所有者別状況

株式の状況 (2022年7月31日現在)

発行可能株式総数 **38,000,000株**

発行済株式の総数 (自己株式 726,853株を含む) **10,729,370株**

株主数 (前期末比241名減) **2,679名**

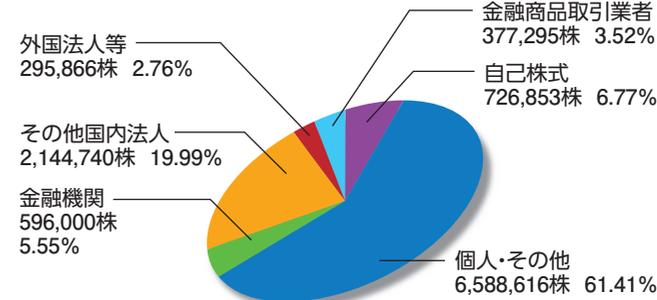
大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
イムラ封筒社員持株会	699,352	6.99
井村 優	446,400	4.46
有限会社ケイ・アンド・アイコーポレーション	385,250	3.85
有限会社アイ・エム興産	358,750	3.58
井村 美和	318,000	3.17
イムラ封筒取引先持株会	313,800	3.13
井村 達男	302,000	3.01
井村 光一	301,000	3.00
日本紙パルプ商事株式会社	300,000	2.99
井村 守宏	295,800	2.95

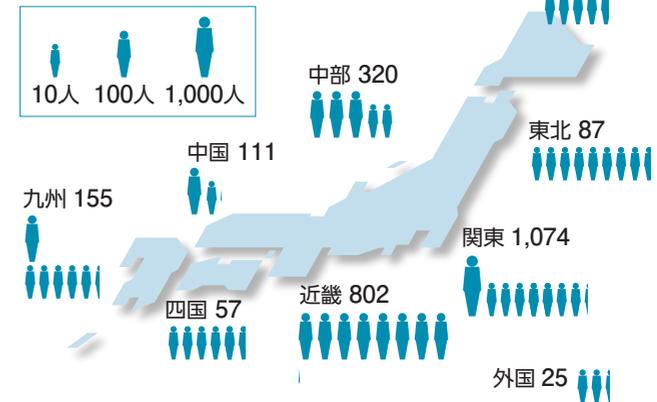
(注) 1. 当社は自己株式726,853株を保有していますが、上記大株主からは除いております。
2. 持株比率は自己株式数(726,853株)を控除して算出しております。

所有者別状況 (2022年7月31日現在)

所有者別分布表



地域別分布表



イムラだからできる、企業のトータルビジネスサポート。

独自の価値を生み出す封筒事業から、メーリングサービス、ITシステム提案まで。イムラ封筒はビジネスコミュニケーションをトータルサポートします。

メーリングサービス事業

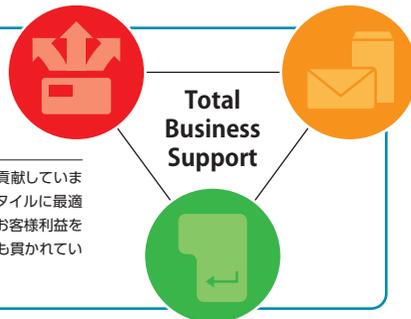
封筒の新しい価値をお客様に提案するサービスです。各種DMの企画から宛名印刷・封入・加工・発送、顧客リスト管理まで総合的なビジネスサポートを実現。お客様のコミュニケーション活動の効率化やコストダウンを強力に支援します。

パッケージソリューション事業

数々の新商品を提案する開発力と、ロットの大小に関わらず常に安定した品質を低コストで提供する生産力、お客様のニーズに迅速・的確に応える機動力を備えています。コミュニケーションの可能性を追求し続けるイムラ封筒のコア事業です。

情報システム事業

IT分野でも、イムラ封筒は社会に貢献しています。お客様のニーズやビジネススタイルに最適なシステムやソフトウェアを提供。お客様利益を常に最優先する姿勢はこの分野でも貫かれています。

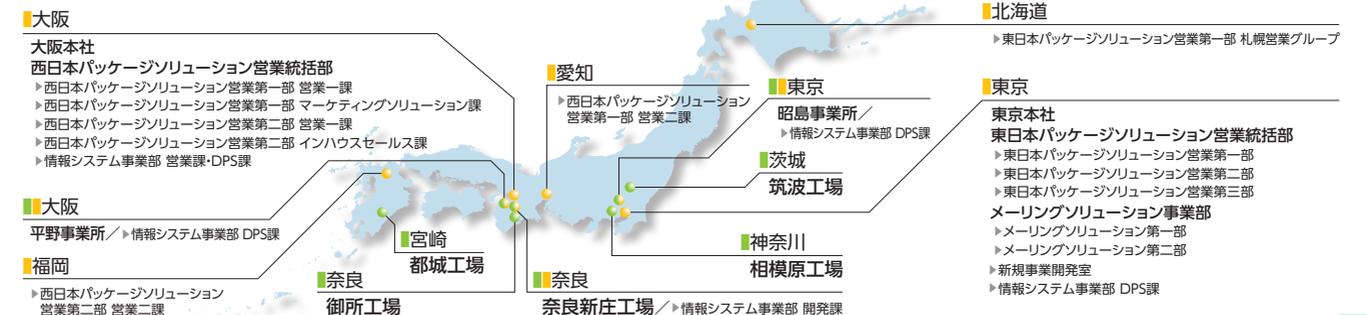


会社の概要・役員・事業所

会社の概要 (2022年7月31日現在)

商号	株式会社イムラ封筒 (英文名:IMURA ENVELOPE CO.,INC.)
本店	〒542-0076 大阪市中央区難波五丁目1番60号 なんばスカイオ18階 電話(06)6586-6121(代表)
創業	大正7年7月
設立	昭和25年2月
資本金	1,197,986,033円
事業内容	1. 封筒、袋などの紙製品、文具の製造、販売及び事務用品、日用雑貨品の販売 2. 不織布、合成樹脂シートを素材とする封筒、袋類、建築・造園資材の製造、販売 3. 印刷物などの物品の保管、封入、包装、梱包及び発送業務の代行 4. 倉庫業 5. 印刷、封入及び包装用機械の企画、研究開発、製造、販売及び輸出入 6. ダイレクトメールの発送及び請求書の発行等に関する情報処理業務の受託 7. 広告代理業務 8. コンピュータ及び周辺機器、事務用機器の販売、教育指導及び保守管理 9. コンピュータソフトウェアの企画、開発、制作、販売及び保守管理 10. インターネットへの接続サービス業務 11. 電気通信工事業 12. 医療用事務機器及び資材の販売 13. セミナーの企画、立案、制作、斡旋及び運営 14. 前記各号に付帯する一切の業務
従業員数	連結 839名 単体 748名 (2022年7月31日現在)
子会社	東杏印刷株式会社 株式会社メトロテック 株式会社ハシモトコーポレーション

事業所 (2022年7月31日現在)



役員 (2022年7月31日現在)

取締役会長	井村 守宏
代表取締役社長 最高経営責任者(CEO)	井村 優
代表取締役副社長 最高執行責任者(COO)	瀧口 斉
取締役専務執行役員	吉川 伸昭
取締役常務執行役員	食野 直哉
社外取締役	白田 敬
社外取締役	城谷 満江
常勤社外監査役	知念 等
社外監査役	山田 拓幸
社外監査役	清水 健一
上席執行役員	炭家 裕之
上席執行役員	森田 旭
執行役員	奥谷 勇二
執行役員	分領 雅之